

常葉宮園だより

第203号



A group of students in school uniforms are sitting at their desks in a classroom. They are all smiling and looking towards the camera. The students are wearing dark blue blazers with white collars and ties. The classroom has a chalkboard in the background and large windows on the left side.

中学生
制服と
授業風景



◀ 40周年記念式典と生徒信条唱和



A full-body photograph of two students in school uniforms. The male student on the left wears a dark blue blazer with three gold buttons, a red patterned tie, and dark trousers. The female student on the right wears a dark blue blazer with four gold buttons, a red patterned tie, a white collared shirt, a dark blue pleated skirt, and dark knee-high socks. Both students have short dark hair and are smiling.

◀ ▲

創立50周年を 「改革と創造の年」 とするために

常葉学園橘中学・高等学校
校長 吉村 耕司

この創立50周年を「節目の年」であるとともに「新生橋への本格的一貫コースの設置、高等学校の普通科一貫コース・総合進学科」、「Ⅰ類・Ⅱ類」という新たな科・コース編成から制服の変更まで教育改善を行ってきました。生徒の学習活動や多くの部活動や生徒取り組む生徒の姿となってその成果が現れてきています。実際、従来の制度や仕組み、慣例の改革であります。意思決定の方法や方法、行事などの見直し、教科会議の改革、生徒募集の広報強化、情報の共有、事務部門の支援体制強化などが重要な点になります。

③「教職員の意識と風土改革」とは、変革へのチャレンジ精神、進歩してやまない気概と教育への情熱であります。現状肯定・堅持(前例主義)のぬるま湯体质は、今や教育の世界でも不要の産物であり、認められません。現実を直視し、外から見た常葉橋の評価に耳を傾け、自由で闊達な風土を全員で作ることが必要です。建設的で前向きな意見交換、明るい挨拶、誠意ある対応、整理・整頓・清潔・清掃、身だしなみなど身近なところからも、意識と風土の改革は始まります。「教育目的・目標、教育方針」、科・コースの「指導方針」を十分に理解し、実践に移そうとするここぞ意識改革の土台であります。

もちろん、こうした改革・改善において、建学の精神「より高きをめざす」、教育目的「知徳体情操に優れ品格ある人材の育成(学力を伸ばす、人間性を高める)」、そして、教育の原点である「人間は誰もがかけがえのない存在であるという人間観」、「人ひとりをよく見る教育」、自ら学び、学び続ける力をつける「授業こそ教師の命」といったことは不変・不動であります。ところ、「天の時」「地の利」「人の和」と言いますが、最も大切なのは「人の和」です。たたかれてあれどいつうものではありません。問題意識を共有して、切磋琢磨、力を合わせ、新生橋を創造しようという意氣のある「人の和」であります。これからも一層の努力を重ね「卓越した教育」「卓越した学校」を目指し、全職員が力と心を合わせ、情熱を持つて教育活動に取り組んでいきたいと決意を新たにしております。

最後になりましたが、これまでのご支援・ご協力にあたためてお礼申し上げるとともに、従前にも増して厳しくも温かいご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

橘小

災害に備える ～児童引渡し訓練実施～

5月12日、東海地震予知情報を受け「警戒宣言」が発令された事態を想定し、「災害時児童引渡し訓練」を行いました。今回の「災害時児童引渡し訓練」は以下の2つを目指しました。

①東海地震への防災意識の高揚を図る。②「警戒宣言」が発令された時の保護者への児童引渡し依頼伝達および安全な児童引渡しを実地訓練する。午前11時51分、放送終了を合図に、全学級、一斉に引き渡し訓練が開始されました。どの学年の児童も皆、教員の指示によく従い、素早く、落ち着いた態度で行動できました。低学年の中には、教室のスピーカーから流れるサイレンの音にびっくりする子も見られましたが、実際の音を自分の耳で確認することができ、よい経験となりました。訓練全体を通じ、教職員・児童・保護者共によく連携がとれ、また、緊張感にあふれた「災害時児童引き渡し訓練」となりました。



担任から児童を引き取る保護者

児童引渡し訓練は以下の2つを目指しました。

①東海地震への防災意識の高揚を図る。②「警戒宣言」が発令された時の保護者への児童引渡し依頼伝達および安全な児童引渡しを実地訓練する。午前11時51分、放送終了を合図に、全学級、一斉に引き渡し訓練が開始されました。どの学年の児童も皆、教員の指示によく従い、素早く、落ち着いた態度で行動できました。低学年の中には、教室のスピーカーから流れるサイレンの音にびっくりする子も見られましたが、実際の音を自分の耳で確認することができ、よい経験となりました。訓練全体を通じ、教職員・児童・保護者共によく連携がとれ、また、緊張感にあふれた「災害時児童引き渡し訓練」となりました。

富士
常葉大

「静岡県学生就職連絡協議会 第1回総会」開催

新緑が輝く5月8日、富士常葉大学において静岡県内すべての大学・短大の就職担当者が一堂に会して静岡県学生就職連絡協議会が開催されました。今年度は富士常葉大学が当番校であり、総合経営学部の山本隆三教授が会長に就任され、平成24年度の事業計画と予算案が滞りなく承認されました。

常葉
中・高

金環日食観察会



美しい金環日食 雲の切れ間が観察のタイミング

5月21日本校屋上にて金環日食の観察会が行われました。日本では932年ぶりに見られるということで、朝7時から多くの生徒が観察グラスを持って参加しました。天候は曇りでしたが、雲の切れ間から光がさした際にははっきり見ることができました。事前に理科の授業で日食投影機（ピンホール）を作成し、小さいながらも欠けていく様子が見え、美しいリング状になった時はあちこちで歓声が上がりいました。わずか数分ではありましたが、貴重な日食を見ることができ、いい体験となりました。

常葉
短大

今年も「リンク西奈」で小学生に英語指導！

英語英文科では、今年度も静岡市葵区瀬名の西奈生涯学習センター（リンク西奈）で小学1～3年を対象とした英語教室「あそぼうあそぼう ABC」を開きます。講師を務めるのは英語英文科の「小学校英語指導者資格」の取得を目指す2年生12名です。歌や手遊び、カードゲームなどを通じて英語に親しんでもらいたいと考えています。

10月、12月にはハロウィーンやクリスマスに関するスペシャル・プログラムを計画しています。教室は7～12月までの第3木曜日に開かれます。応募方法については、静岡市の広報誌『静岡気分6月15日号』をご覧ください。



あそぼうあそぼう ABC

橘高

学校を花で明るくしよう！

美化委員では、校内に花を植える活動をしています。「花を植えることは、きれいな学校をつくっていくためには必要だ」という生徒の要望から始まりました。第1回目は、5月14日にコスモス、ヒマワリ、ニチニチソウなど7種類の花を植えました。通る人にきれいだと思ってもらえるよう、今後も季節が変わることにさまざまな花を植えていきたいと思います。（美化専門委員会）



ひまわりの種など植えました！

3年生 実習対策ゼミ

静岡
リハ専

発表会風景

去る6月1日、3年生ゼミの発表会が行われました。今回は『疾患の理解を深める』という目的でグループワークを行い、調べ学習の成果を発表し合いました。他のグループや4年生の参加者から多くの質問を受け、学年全体で知識を共有する良い機会になりました。

浜松大

こどもむら開催



学内を探検するこどもたち 春の味覚をほおばるこどもたち

こども健康学科の学生が自然の遊び場を提供する「こどもむら」が今年も始まりました。5月26日、地域の親子と学生が、春の生き物探しを楽しみました。参加者は学生と一緒に学内を散策。水路のオタマジャクシやメダカなどを探したり、てんとう虫を捕まえたりしました。また摘んだ野草をてんぶらにして春の味覚を楽しみました。

富士
常葉大

新「常葉大学」広報大使として 学生活躍



平成25年4月、常葉大学・浜松大学・富士常葉大学の3大学が統合し、11学部21学科の静岡県内最大規模の総合大学「常葉大学」が誕生します。「自分たちの大学をより多くの方に知ってもらいたい」と3大学の学生達が広報大使となり協力して広報活動を繰り広げています。テレビ収録、ラジオ出演、コマーシャル作り、オープニングキャンパスのスタッフ等、学生の立場から感じる大学の楽しさを存分に伝えています。富士常葉大学広報大使の倉橋賢広さんと石川偉一朗さんは「今までの学びや経験を話すことで、大学の魅力を皆さんに知ってもらえたたら嬉しいです！」と意気込みを語ってくれました。学生の活躍を是非ご覧ください。



キャスターの榎本教子さんと一緒に

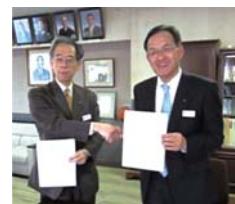
常葉
短大

橘高

橘高校生9名、常葉短大の授業を受講中！

今年度4月から常葉短大の授業を橘高校生が受講しています。これは、今年2月21日に調印(写真上)された両校の連携教育に関する協定によるもので、学園教育の充実や学校間の相互扶助、そして、高校教育から短大教育への円滑な移行を目的としています。この制度で、橘高校生は「科目等履修生」として、短大の「教養教育科目」の一部を無料で受講できるようになりました。常葉短大としては、平成14年度から行っている常葉高校との連携教育に次ぐ2つ目の連携となります。高校生が正規の授業を短大生と一緒に受けるのは初めてのことです。

3月にガイダンスを実施した結果、4月には9名(受講者数12名)の3年生が、4科目(「環境とエコライフ」・「情報リテラシー」・「社会と人間」・「哲学と人生」)に対して履修登録をし、授業(写真下)に出ています。受講の条件は短大生と全く同じで、通常の時間割に開設されている授業(4時間目14:40~または5時間目16:20~)に、高校から隣の短大まで「道を1本渡って」移動します。成績評価に関する課題や試験についても特別扱いではなく、無事に単位認定を受ければ、短大が成績証明書を発行します。そして、仮に短大に入学した場合は、取った単位の一部が短大での取得単位となります。受講生は、始めは高校と異なる短大内の雰囲気や短大生の様子に戸惑いもあったようですが、今ではすっかり馴染み、短大生も制服で受講する高校生たちに良い刺激を受けています。



無事に協定調印を終えて



制服で受講する生徒たち

浜松大

関東地方竜巻災害緊急支援募金



街頭で手作りのパネルを掲げ、呼びかける学生

5月6日、茨城県や栃木県で起きた大きな竜巻被害を受け、5月11日、12日の両日、JR浜松駅北口前のギャラリーモール「ソラモ」周辺で浜松大の学生サークル「HUVOC隊」の学生たちが、竜巻災害緊急支援募金を行いました。学生たちは、竜巻被害の写真を掲載した手作りパネルを掲げながら、買い物客に協力を呼びかけました。2日間で集まった募金額は244,623円でした。義援金は日本赤十字社を通じて寄付されました。

常葉大

韓国・濟州大学校
60周年記念展覧会へ参加

提携大学である濟州大学校の60周年記念事業の1つとして、提携3大学(濟州大、中国天津美術学院、常大)50名の教員による国際交流展覧会が濟州道立美術館で、5月16日より22日まで開催されました。本学からは、造形学部教員9名が出品し5名が現地制作、展示準備を含めオープニング・セレモニー等へ招待されました。本学30周年記念展をはじめ4度にわたる交流やグローバル・コミュニケーション学科の日本語教育実習の実施等、ここ数年の関係から歓待を受け、総長、学部長、国際交流室等への表敬訪問と教員や学生との交流を行ってきました。また正式ではありませんが、天津美術学院からは提携の提案があり、新たな国際交流の展開が期待できます。



オープニング・セレモニーの様子

棚田保全ボランティア・棚田マルシェ



田植え作業

社会環境学部の学生が5月12～13日にかけ、伊豆の松崎町石部に棚田保全ボランティアに行きました。当日は、棚田オーナーの田植え作業をスタッフとしてサポートしたり、地域の農家の皆さんとともに野菜の販売などを行いました。

橘小

金環日食を見る
～金環日食鑑賞会実施～

金環日食に見る児童たち

橘小学校からとらえた
金環日食(土橋淳先生撮影)

5月21日、金環日食観察会が本校運動場にて実施されました。(参加児童数224名)当日はうす曇りでしたが、観察メガネを通して金環日食の様子をはっきりと見ることができ、参加した児童からは感動の声が上がりました。

菊川高

高校芸術鑑賞教室



当日の風景

5月2日、高校2・3年生が菊川文化会館アエルで芸術鑑賞会を開催しました。ラン音楽をテーマに、「クワトロ・ロコス」にトランペット、トロンボーン、サキソフォン、女性ヴォーカルを加えた8人編成のバンドをお招きし、吹奏楽部、応援団、チア・リーダーズ部を中心に行う野球応援「エル・クンバンチェーロ」「ラテン・キクガワ」(マンボN.O.5、テキーラなどのラテン音楽のメドレー)を再認識し、レベル・アップを図ろうという狙いで企画された今回の芸術鑑賞会。プロのミュージシャンとのコラボも実現し、盛況の中締めくくることが出来ました。

県シニアサッカーフェスティバルで トレーナー活動

浜松大

民族が暮らすナクラン村の出身で、現在はチエンマイにあるパブヤップ大学で英語を学んでいます。タイの学校を継続的に支援している静岡弥生ライオンズクラブの招聘で来日しました。



▲テeingをする学生トレーナー

1年生 研修センターゼミ 静岡リハ専

4月28日、29日の両日、エコバで開催されたシニアサッカーフェスティバルで、健康プロデュース学部心身マネジメント学科アスレティックトレーナーゼミの学生が、ピッチでのケガの応急処置や熱中症予防などのサポートとブースでのコンディショニングサポートを実施しました。学生は70代～90代を対象に、短期間でも良いコミュニケーションが取れると立ったと話しました。



▲武山先生と学生たち

遠足

常葉中・高

4月26日から28日まで、1年生78名が対象に研修センターゼミを開催しました。食事作法や座禅について初めて経験する学生が多い中、改めて自分自身の生活を見直すよい機会になつたと思いま



▲うogami-pai工場にて

▲畠総合経営学部長挨拶

交換が行われました。

5月25日、平成24年度第一回高大連携推進会議が行われました。富士常葉大学では平成21年度より高大連携教育の輪を広げ、本学及び連携高校の教育活動の一層の発展と充実を目指しています。推進会議では大学へ期待することなど率直な意見交換が行われました。

高大連携推進会議開催

タイの女子学生が来校

常葉大

4月24日、タイの女子学生ジンダさんが本学を訪問しました。ジンダさんは少数民族が暮らすナクラン村の出身で、現在はチエンマイにあるパブヤップ大学で英語を学んでいます。タイの学校を継続的に支援している静岡弥生ライオンズクラブの招聘で来日しました。彼女の夢は、将来出身の村に戻つて子どもたちに英語を教えること。日本の語学教育の現場を見学するために本学の外国語学部を訪問しました。学生と共に学食を体験し、午後は英会話とりーディングの授業に参加しました。タイでは先生に敬意を払うことが非常に重んじられているため、日本では先生と学生が親しく話している様子が印象的だったそうです。



▲学生と共に学食を体験



▲授業に参加するジンダさん

「地球と音楽」作曲家と器楽奏者のための国際コンクール

音楽専攻科2年生でピアノ科専攻の長谷川美愛さんが第2位入賞

常葉短大

4月21日から26日まで、ブルガリアのソフィア市で「地球と音楽」作曲家と器楽奏者のための国際コンクールが開催されました。このコンクールは、今回で20回を数えます。本学からは、昨年も音楽科専攻科の柳山彩華さんが第一位に輝いています。今年は、音楽専攻科2年生のピアノ科専攻、長谷川美愛さんが参加しました。世界各地から多くの応募者が集い、真剣に腕を競い合う中、長谷川さんはソロ部門で見事に第二位入賞の栄誉をつかみました。最終日に行われたガラコンサートで、長谷川さんはショパンのエチュードOp.10-4を演奏し、観客から万雷の喝采をあびていました。



練習風景

► パーベキューを楽しむ3年生

► ドッヂボールでいい汗を流しました



5月2日、高等部でHRdayが実施され、各クラスで選んだ目的地に向かい新しいクラスメイトとの親睦を深めました。クラスやコースの仲間同士でスポーツやバーべキューをして交流を深めましたが、あいにくの雨で思う存分楽しめず、今年はちょっと残念でした。高等部は日本平動物園へ行く予定でしたが、雨のため校内ドッヂボール大会をして学年を越えて団結を深めました。

橘中・高

HRday・春の遠足

富士常葉大

フレッシュマンセミナー

5月18～19日、焼津市にある中島屋グランドホテルにて保育学部のフレッシュマンセミナーが行われました。入学後の緊張などを解消し、学生同士、教員との親睦を深め、4年間の大学生活のプランを築きあげる機会となりました。



▲学部長講話を真剣に聞く学生

